

## #元気いただきますプロジェクトNEWS

## ニッポンを元気にする取組みが全国で広がっています

食育等推進事業

ジェクトは、

福島県産の

ふくしま食育推進プロ

ちが国産の農水産物の恵

和牛肉を中心に子どもた

開催された。

惟された。 当日ハーティー」 が

みを体感できるメニュー

し、規則正しい生の小学生が参加

わたってお得なコースを てっちりが2倍増量!キ さらに21年1月の

地域の創意による販売促進事業

らふぐフェア」「てっさ・ 記念 極上『厚切り』と 20年12月は「創業40周年 別メニューを販売した。 同社では店舗と通販で特

産トラフグの喫食体験増なる値引きではなく、国 ブロジェクト」を利用す 両立した。 水産業者との関係深化を 国内食材のファン獲得と 訴求。これにより同社は、 ラフグの味をあらためて ち出し、消費者に国産ト 加を狙ったメニューを打 者に国産トラフグのおい 画し、 店舗や 通販で 消費 ますプロジェクト」に参 メニューを販売した。単 しさが存分に伝わる特別 「#元気いただきます 「#元気いただき

## 生産者との関係を深化

グを提供するところ、

に、通常では養殖トラフ

う人は多く、天然ならで

て天然フグを食べるとい 供した。常連客でも初め べて天然ものに代えて提

を博した。通販でも はの歯応えや風味が好評

だきますプロジェ

介を受けて「#元気いた

発足。

「#元気いただき

ンパチ販売支援協議会が

流通業者により養殖力

窮状打破へ補助活用

ますプロジェクト」に参

し、全国で養殖カンパ

となり、 数を底上げ 10倍の売上げ 月では前年比 は20年12月単 取組みに後押 しされ、通販 売。 これらの 会員

の倍量で販 揚げ」を通常 産とらふぐ唐

トラフグを「厚切り」してぜい

地域の創意による販売促進事業

展開を強化。

「玄品」を展開する関門 全国でトラフグ専門店 国産

スの価格はそのまま ク」では全コ 衛代赤間の大盤裾舞、声び!! ペシ 全てのコースを 天然とらふぐでご提供! の手応えを得ている。

を通じて生産者と想いや

きたと語る。この取組み

う」という発想に転換で

「お互いに助け合

に参画したことをきっか

舌労を伝え合い、関係を

店などで消費される養殖

カンパチは販売不振とな

深めた。生産者から、

とができたという。

山口社長が今年、

も計画できない状況は、 向けた新たな種苗の導え

ると、あらためて知るこ

役割を強く期待されてい 産トラフグの内需拡大の

ととなった。餌代などのり、過剰な在庫を招くこ

者を助ける」という発想 締役社長は当初、「生産 取引先の水産業者から紹 じていたという。しかし を"おこがまし 山口久美子同社代表取 い"と感 たのも「#元気いただき初競りへ初参加がかなっフグの本場、下関市での 業をさらに発展させたい 関係が一層深まったた ますプロジェクト」をき 気を肌で感じ、日本の漁 っかけに生産者との信頼 山口社長は競りの活

そこで、愛媛県宇和島市

きな打撃を与えている。 養殖業者や関連業者に大

の水産会社イヨスイが窓

口となり、愛媛県や鹿児

進活動を進めて、

いる。

激減し、輸出も止まった。

同社では、

現在も養殖

島県、宮崎県の養殖業者

造。冷凍ものには出せなする新たな取組みを創一本売りをチルドで販売 費者においしく食べても一つ。として、いかに消 とで同社は、 と決意を新たにした。 期間中に天然トラフグの らうかを追求し、 "日本を代表する食材の トラフグを

ト」の「地域の創意によ

いただきますプロジェク

ンを展開した。「#元与チの販売促進キャンペー

「#元気

の1が補助されることか販売する対象品目の食材 る販売促進事業」では、

中、漁業者をが縮小する

強み。特に近

ことが最大の

年は国内市場

構築している

貫の物流網を に至る一気通

守るため輸出

に活路を求め

# コロナ禍により、飲食

売促進事業」



冷凍など多様な販売網を 密接な連携と活魚、鮮魚、 全般を取り扱う総合商社 イヨスイは、養殖漁業 産地での漁業者との 産地から国内外 る意味で、 関連業者の窮状を打破す だきますプロジェクト」 そのため、養殖魚の在庫 が増え続けたことから、 「地域の創意による販 「#元気いた

会などを展開し、

業の未来を守る支援協議 魚販売支援協議会、水産

キ、シマアジ、同社が開発 カンパチ、マダイ、

・スズ

は着実に拡大している(写真は広島 市の有力食品スーパー鮮魚売場) したタマクエなどの養殖

安定供給ができる養殖魚 る。荻原達也社長は「天魚の普及促進を図ってい る動きを引き続き進めて 養殖魚を食卓の中心にす 食文化を守る意味でも、 が高まっていく。 日本の は、これから確実に需要 旬が作れ、安全・安心で 然魚と違って、 いつでも

一気通貫型の物流網がイヨスイ の最大の強みだ 拡大し、

外の新しいマ ルス感染症が 新型コロウイ や北米など海 拓している。 -ケットを開 ところが、 県の養殖業者や流通業者愛媛県、鹿児島県、宮崎 心に「養殖カン

の魚類需要は 影響で国内で その プロジェクトにより、養ーなどで展開した。この 殖魚の販路拡大はもちろ 拡大を図った販売促進キ っている。 チの認知、普及、 販売支援協議会」を立ち とも協力し、 上げ業者支援を展開。 ンペーンを食品スー 普及、 卸売業者など 消費につなが 養殖カンパ 消費の

#元気いただきますプロジェクトは、 新型コロナウイルス感染症の影響で 行き先を失っている「国産食材」を

## 食材を子ども食堂に ティア学生によ 育講座、ボラン

パーティーを主催するど喜びの声が聞かれた。

グレースコミュニティサ

認知が拡

食育講座を真剣に聞く る寸劇などを楽 会場に届けら

> 59年には鹿児島県で最初 949年に設立された。

牛根漁業協同組合は

正組合員数は約1 にブリ養殖を開始。現在

養殖ブリ(出荷額の

21年1月までの期間中

20年10月から

「ふくしま食育推進プロ

だきますプロジェクト」

林水産省の「#元気いた

もたちは愛情込めて作ら 和牛肉とホタ ゴはスタッフが 調理した。子ど

テの炊き込みで飯」「ホタ 野菜もあったが、このイ キ」に舌鼓を打った。参 菜のお味噌汁」「イチゴ ベントで克服できた」な 加者からは「みんなで食 とメロンのスコップケー 「嫌いな 「冬野 福島県産和牛肉などを使った おいしい食事が振る舞われた 食卓を囲む機会が減って 族化の影響で、大人数で いる。

べると楽しい」

ペルではパーティションのグレースガーデンチャ

や手指消毒で新型コロナ

イルス感染症対策を施

しながら「第3回

ムキッ

ともに、「国産の恵み」「食育等推進事業」を通

の支援プログラムの一つ だきますプロジェクト」

福島産和牛など恵み体感

ども食堂や幼稚園などに

「#元気いた

栄養士会の協力の下、講

向上を図るなど、期間中 肺を派遣して食育知識の

バター焼き」

20年12月19日、郡山市に約60回実施された。

を提供するもの。

福島県

食堂や幼稚園などへ食材

和牛肉や果物を県内の子 の取組みで、福島県産の 杯水産業を応援するため 県内の主要産業である農 ジェクト」を実施した。

もらい、食について考えを子どもたちに味わって

る食育の機会も創出し

『#元気いただき クを生か

負を語った。 と福祉を』を目指す事業 り』『すべての人に健康 体となり、幅広い世代が ますプロジェクト』をき つながる子ども食堂のネ っかけに地域の人々が主 『住み続けられる街づく

れた「すき焼き煮」「ホタ が重要。 る福島中央テレビの伊藤 た」と感謝の意を述べた。 でいるし、本当にありが 気いただきますプロジェ がいるのならその居場所 の"居場所"を作ることは「地域には子どもたち 伸輔氏は「少子化・核家 有効に使わせていただい 店で本来消費される食材 重要性を語る。 になりたい」と、 子どもたちもとても喜ん を提供していただいた。 クト』では、ホテルや飲食 -ビスの三箇豊実理事長 プロジェクトを統括す 生産者のためにも 一人でも希望者 事業の

> 売り先を失った魚を有効 に解消しなければならな

ため、

てきていた。そんな中

が閉ざされ在庫が滞留 国内での販路を広げるた

参画した。 きますプロジェクト」に め、今回「#元気いただ 脇元浩継参事は、

地域の創意による販売促進事業

販売促進事 創意による の影響が広がると、販路 殖力ンパチ、マダイ、カタ 出していた。新型コロナブリの約7割を北米に輸 の安定化に努めている。 クチイワシ、タチウオと 8割以上)を中心に、 カキ小屋運営をスタ 者によるカキ類の養殖、 ト。新たな漁業収入源と いった魚種を扱う。20 同組合はもともと養殖 8年度からは漁船漁業 漁家経営

して打ち出し、

## 相互扶助の力発揮

## 牛根漁業協同組合

『漁協

徴だとしている。

本当に助か ロジェクト』で消費者に は非常に難しい 内で販売先を開拓するの い苦しい状況に直面し 『#元気いただきますプ 体で』となればなおさ 一方、今になって国 そうした意味で、

の「地域の ジェクト」 きますプロ 元気いただ った」と語 \_ #



牛根漁業協同組合は鹿児島県で初 めてブリの養殖を手掛けた(写真 は同組合事務所)

くの消費者に購入されますプロジェクト」で多 「ぶり大将」の認知を拡 「#元気いただき プロジェクト」の特徴に、

ありがたいとしている。 購入や利用につながると る。結果として、 にした際に思い出したり 加企業の食材への理解を げる。消費者に対しては、 夫し発信する情報がセッ してほしい」と呼びかけ トになっている」点を挙 「ぜひこれを機会に、 「商品と各企業が創意工 話題にしたり、 参

成長が早く脂がのりやす 場は鹿児島湾の中にある いのが同組合のブリの特 にも認定されている。漁 ブランド名を貼った商 県ブランド魚「か 大将」は、 鹿児島 水温が安定し一年 多くの人に興味を持って えた産業の再開は継続よ の役割を果たしていきた 今後は補助金申請だけで もらえる環境を目指す。 ジやSNSでの発信など いとしている。一度途絶 いる現状に懸念を示す 「#元気いただきます 現状を外部へ発信し 相互扶助組織として 漁協のホ

中給餌することが可能。

の2分の1を支援 広告宣伝費など 時の業務負担に苦労して 的な支持につなげていく いかに価値を高め、安定大できたという。国内で か。これを今後の課題に 生産者支援関連では、 小規模の漁業者が非常

脇元浩継参事

同組合の

する制度がある。

これを踏ま

でしまのさかな」



あなたのひとくちが、 ニッポンを元気にする。

食べて応援しよう!というプロジェクトです。

## 井元気いただきます プロジェクト

SNSや広報において、「#元気いただきます」「#元気エール」 投稿で プロジェクトの広がりにご協力をお願いいたします。 公式ウェブサイト等では、みなさんの投稿をご紹介しています。

> 農林水産省 maff.go.jp